
花弁の行方

PiD

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

花弁の行方

【Nコード】

N7470Q

【作者名】

P i D

【あらすじ】

突然姿を消した彼女。

色を失った毎日の中、季節が変わったことに彼はようやく気付いた。

強い風に吹かれて一斉に散った薄紅色の花弁が寒風に舞う風花のよう
に宙を踊る。

その風景に目を奪われたフリッツは、足早に横断しようとしてた歩
道の端で思わず立ち止まった。

空から落ちてきた花の欠片が伸ばした掌の上にふわりと収まる。舞
い落ちる軌跡を確かめるように顔を上げると、天上に広がっている
のは紗をかけたような薄ぼんやりとした空。しかしよくよく見れば、
それは何処か春めいた色をしていた。

「もうこんな季節なのか」

言葉が溜息と共に零れ落ちる。

水分を失い色を変えた葉が同じように空から降り落ち、足元でかさ
こそと音をたてていた季節が遠い昔のように感じられる。

つむじ風が集めた多くの落ち葉を、音を立てながら楽しそうに踏み
しめていた麦色の頭が姿を消してからまだ半年。だけど、徐々に曖
昧になっていく細部の輪郭は、明晰な頭脳と抜群の記憶力を持つフ
リッツをしても鮮明に蘇らせることはできないようだ。

失踪としか表現出来ない方法で自分の元から去っていたゾーイの陶
器のような白い肌を思い出す。

フリッツが触れると頬かに震えた滑らかな頬。昂っていく情熱に呼
応するように色付いていく身体としなやかにしなる四肢。腕の中の
華奢な身体は、この薄い花弁のように力を込めればあっさりと壊れ
てしまっただろう。なのに、フリッツを抱き締めた細い腕は、まるで
世界に包まれているような安心感と充足感を与えてくれた。

「何処で何してるんだろう」

半身を失ったような喪失感。感情という色を失った単調な日々。身の回りの一切合切をフリッツの元へ置いたままゾーイはいなくなつた。

まるで近所に買い物へ出かけるような気安い様相。それが最後に彼女を目撃した人物が語ったゾーイの姿だ。

冬に会った友人に「寒そうだ」と指摘された薄っぺらなジャケットは、いつのまにか周囲の服装に溶け込んでいる。

所々が硬くなつた分厚い掌の中の欠片は、その存在など最初からなかったかのように次に吹いた強い風に攫われていった。

（後書き）

物書きリハビリ用の小話。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7470q/>

花弁の行方

2011年10月6日20時07分発行